

開導聖人を支えたご信者物語

第7回



佛立開導日開聖人◎ご生誕200年慶讃

御牧卯兵衛さんには、妻のイホさんとの間に二男一女の子どもが生まれたんだ。長男の虎之助は、開導聖人に「現喜」と名前を付けてもらい、お弟子となるんだね。今回は法華堂（現・佛立寺）の建設、そして開導聖人と現喜らお弟子のエピソードのお話をするね。

御牧卯兵衛 ②

文久元年（一八六二）秋、滋賀県大津地方にたくさんのご信者が増えていった頃、御牧卯兵衛さんは自分の持っていた茶畑をご有志されるんだ。そして、その土地に法華堂を建てることになったんだ（平成二十七年十月号の「開導日開聖人物語」を読んでね）。

この法華堂を建てている時、九歳になる卯兵衛さんの長男・虎之助が手伝いをしていたところ、牛車にひかれて大ケガをしてしまうんだ。でも、このケガはご利益をいただき治ってしまっただよ。虎之助はこの時の大ケガが縁（原因）となつて、仏道を志す（目指す）ことになるんだね。

名前も「現喜」と付けてもらい、開導聖人のもとでお弟子として修行することになったんだ。



文久3年のころの写真
左 開導聖人 御年47歳 中 虎之助（現喜日開上人）11歳 右 弁吉（弁了日隨上人）10歳

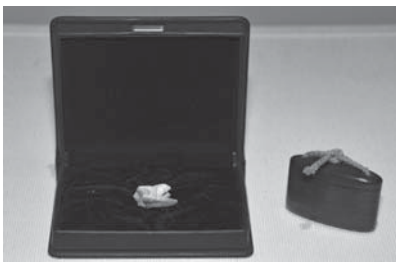


法華堂の建設の手伝いをしている時に虎之助は牛車に足をひかれてしまう…。

卯兵衛さんの長男・虎之助と、大阪の秦新蔵さんの三男・繁松（平成二十九年五月号の「開導聖人を支えたご信者物語」を読んでね）は、ほぼ同じ位の年齢だったんだ。そこで、開導聖人はこの二人のお弟子をしっかり育て、将来、立派なお教務になるようにと、とても期待されていたんだよ。

MINI-STORY INTERVIEW...

明治三年（一八七〇）一月二十四日、開導聖人は、大阪の秦新蔵さんの家でお昼ご飯をいただいた後、「左の歯」が抜けてしまったんだ。そこで、横でお給仕（お世話）をしていた虎之助にその歯を与えたんだ。



開導聖人の肉歯（実物） 御牧家蔵
明治三年、開導聖人が虎之助・現喜（のち第二世日開上人）に与えられたもの（現在京都佛立ミュージアムでの「長松清風展」で展示中-2017/10/15まで）。
ちなみに、開導聖人の「肉歯」は、この他にもご遷化道場の義天寺でも護持されているものがある。

二ヶ月後の三月、日も同じ二十四日。大津の御牧卯兵衛さんの家で朝ご飯をいただく後、何と「右の歯」が抜けてしまったんだ。偶然にも、その場でお給仕をしていた繁松に今度はその歯を与えられるんだよ。

これは、将来、二人が佛立講発展のために大きく力を発揮すると思われた開導聖人が、ご自身の「歯」を、それぞれに与えられたものなんだよ。開導聖人が二人に大きな期待を寄せられていたことが分かるね。実際に、繁松は二代目・秦新蔵（兄が若くして亡くなったので家業を継いだ）となり、ご信者として開導聖人や佛立講をしつかりと外護（ご信者が自分の持っているお金や物、身体を使って、み教えを保護し、お坊さんの修行を助けること）されたんだよ。

また、虎之助（現喜）は、開導聖人のご遷化（位の高い僧が亡くなること）後、第二世講有日開上人として宗門を担う立派なお導師となったんだ。二人とも開導聖人のご期待どおりのご奉公ぶり、本当にすごいね！

先月号の「御牧卯兵衛さんと歴代御講有の関係図」で、紙面の関係上、青色部分が掲載できませんでしたが、ここに掲載させていただきます。

